



会津医療センターから こんにちは！



【23】 栄養管理部
栄養技師長 久田 和子

『信頼される栄養管理を』

7 年程前のある日、病室を訪ねると「栄養士さん、食べられたよ、すごく良いよ！」と弾む声で話しかけられました。その方は、癌治療のための3回目の入院。最初の入院では口の中が痛んで食欲も落ちてしまい、2回目の入院では唇もただれて、とても辛そうな様子でした。

3回目の入院の際、前よりは少しでも楽に食べられるようにと主治医と看護師に相談しながら食事を考え工夫していたので、その方は私を見つけて、口が荒れずに食べられていることを元気に教えてくださったのでした。

さらに、親として子どもたちのために何としても生きなければならないと私に話され、強い思いで懸命に治療に立ち向かい、「おかげで食べられたよ、ありがとな。がんばっからな！」と退院されました。その後は言葉どおり体調に気を付けて過ごしておられます。私は、感謝に溢れる言葉と前向きさから多くの励みをいただいただけでなく、その方との関わりから食べることの大切さと栄養の力を改めて教わったと、とても心に残っています。

病院にはさまざまな入院患者さんがいらっしゃいます。それぞれの治療の過程で食欲が落ちたり味覚が変わったりした方、食事でもせてしまう方、飲み込むのが難しい方、食べられなくなっている方もいて、食事や味の好みも様々です。そのため、必ずしも患者さんのすべてのご要望に応えきれないこともあり、課題に直面することもあります。私たち栄養管理部は、その人の食べ易さを考え、軟らかさや量の加減、栄養補助食品等の調整、手術や化学療法等による低栄養の予防・改善など、患者さん一人一人に必要な栄養管理の実現を目指しています。

栄養管理は日々進歩しており、食事の提供についてもさまざまに変化しています。私たちは患者さんに食事が届くまでのすべての工程で努力をかさね、この病院に入院して良かったと信頼される栄養管理を実践していきます。